

上杉軍×織田軍の激戦地

魚津城の戦い

時は、天正十年。越後の上杉方にとって重要な拠点であった魚津城は、越中制圧をもくろむ織田方の軍勢に包囲された。壮絶な戦いが繰り広げられたが、善戦むなしく落城。城将に限らず老若男女が無念の死を遂げた。八十日間に及ぶ籠城戦であった。

ところが、この悲劇の前日、本能寺において織田信長が自害を遂げていた。

越中での攻防

上杉謙信の死後、家督相続争い「御館の乱」の長期化により、越後国(新潟県)の勢力が衰えはじめた。越中国(富山県)への侵攻を目指す織田信長は、その機を逃さず、天正九年(一五八二)家臣の佐々成政を人国させる。越中の西部域をほぼ制圧し、上杉方は徐々に東部へと追いやられていった。魚津城や松倉城は、上杉方にとって、越中進出の拠点であり、越後防衛の要でもあった。謙信の後継者となった上杉景勝は、この二つの城を織田方と対峙する防備の要として重要視していた。



大町小学校にある「魚津城址」と新まれた石碑

魚津城をめぐる戦い

天正十年(一五八二)三月、柴田勝家、前田利家、佐々成政ら織田方の北陸討伐連合の大軍が上杉方の魚津城に攻撃を開始した。劣勢となった中条景泰ら魚津城将たちは、景勝の側近である直江兼統宛に、救援の要請と落城間近で決死の覚悟であることを四月二十三日付けの書状で伝えている。その後、五月六日に魚津城の二の丸が落とされ、五月九日には弾薬が底を尽きたという。

上杉方は、すぐに救援に動けなかった。本拠地である越後の春日山城周辺で、織田方の家臣である信濃国(長野県)の森長可、上野国(群馬県)の滝川一益らが侵攻の機会を窺っていたからである。

景勝がようやく援軍を率いて天神山城に布陣したのは五月十五日になってからである。しかし、その間に織田方の越後侵攻が激化し、春日山城が危険にさらされた。このため、景勝はやむなく五月二十六日に天神山城を撤退。魚津城は孤立無援の状態となった。

落城と本能寺の変

景勝が退却し、兵も食糧も尽き、絶望的な状況に陥った魚津城に対して、織田方は絶

攻撃を開始した。景勝が城を捨て降伏するよう命じるも、魚津城将たちは敵にくることを潔しとせず、耳に穴を開け、姓名を記した名札をつけ、ある者は腹を切り、ある者は刺し違えて散っていったといわれる。また、女性や子どもも自害し、堀に身を投じたともいわれている。壮絶な戦いの末、魚津城は六月三日ついに落城した。

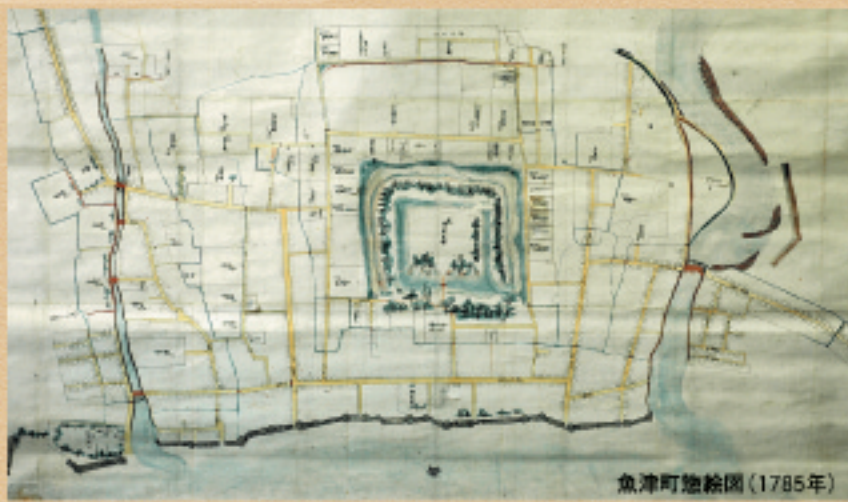
このとき景勝ら上杉方は、かけがえのないものを失い、悔やみきれない気持ちであったであろう。景勝と上杉家にとって最初の試練ともいえる天正十年の魚津城の戦いは、こうして幕を閉じた。

魚津城の歴史

市街地の中心部に位置する平城で、築城年代は明らかではないが、室町時代には松倉城の重要な支城であった。魚津城は、北陸道の押さえとなる方、松倉城への重要なルートと考えられる角川の河口に位置する海陸の交通の要衝にあった。戦国末期には、松倉城に代わり新川郡の中心地となり、ここをめぐって幾多の戦闘が繰り広げられた。天正十一年に織田方が上杉方を制して以来、佐々成政、次いで前田利家の支配下となり、江戸時代初期には廃城となった。しかし、樞要の地にあることから加賀藩は米蔵や武器庫を置き、周囲に郡代所や奉行所などを配したので、魚津町は近世城下町として新川郡の政治・軍事の中心として繁栄した。

天明五年(一七八五)の「魚津町惣絵図」には、本丸とそれを三方から囲む二の丸が描かれている。

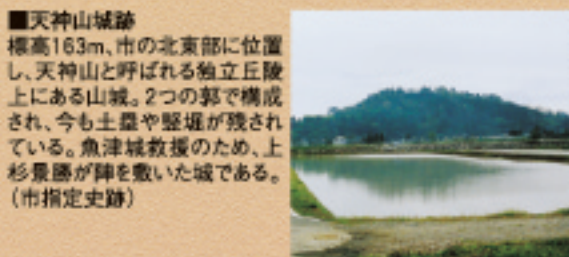
明治初期ごろまで堀や土塁などが残されていたが、のちに撤去され、当時を偲ぶものは何もない。現在、その跡地には大町小学校が建っている。(市指定史跡)



魚津町惣絵図(1785年)



魚津城衆十二名連署書状(天正10年) 山形大学附属図書館所蔵
織田方の武将達に包囲され、攻撃を受けていた魚津城において、守備を固める中条景泰ら12名の城将たちが、直江兼統に宛てて窮状を報告し、救援を要請した書状。



天神山城跡
標高163m、市の北東部に位置し、天神山と呼ばれる独立丘陵上にある山城。2つの郭で構成され、今も土塁や堅堀が残されている。魚津城救援のため、上杉景勝が陣を敷いた城である。(市指定史跡)



松倉城跡
標高430m、市の南東部に位置し、富山県下でも最大規模を誇る山城。本丸からのろし合まで5つの郭で構成されている。松倉城を中心として周辺に多くの支城や砦が築かれた。魚津城に中心が移るまでの約250年にわたって、新川郡の政治・軍事の中心として栄えた。(県指定史跡)

織田軍

柴田勝家
福井市立歴史博物館所蔵
大永2年(1522)?~天正11年(1583)
信長の重臣。北陸方面の大將として佐々成政、前田利家らを率い、魚津城を包囲し、上杉景勝と対峙する。信長の死後、秀吉と対立するも、賤ヶ岳の戦いで敗れ、越前北ノ庄城において自刃した。

前田利家
石川県立歴史博物館所蔵
天文6年(1537)~慶長4年(1599)
柴田勝家や佐々成政らとともに、魚津城を攻撃。信長の死後、秀吉に臣従し、上杉景勝とともに五大老の一人となる。加賀100万石の礎を築いた。

佐々成政
富山市郷土博物館所蔵
天文8年(1539)~天正16年(1588)
信長に仕え、織田方の東方最前線である越中国で上杉方と戦った。柴田勝家率いる北陸方面軍の一員として魚津城を攻撃し、勝利。富山城を居城とし越中を平定した。

関係武将

魚津城の戦い

天正十年(一五八二)

上杉軍

上杉景勝
米沢市上杉博物館所蔵
弘治元年(1555)~元和9年(1623)
母は謙信の姉・仙洞院。父の死後、謙信の養子となる。御館の乱で勝利し、上杉家の家督を継ぐ。魚津城の戦いでは、自ら援軍を率いて天神山に陣を敷くが、春日山城が危険にさらされたため、降参を余儀なくされた。本能寺の変の後、上杉家は秀吉に臣従し、会津120万石に移封される。その後徳川家康と対立し、関ヶ原の戦い後は、米沢30万石へ減封された。

直江兼統
米沢市上杉博物館所蔵
永禄3年(1560)~元和5年(1619)
上杉家の執政。直江家を継ぎ、与板城主となる。御館の乱後、織田方と対峙することとなる。魚津城の戦いでは、城将たちが決死の覚悟を決めた連署状を兼統に送っている。越後から会津、米沢へと国替えを余儀なくされるが、落城の基礎を築き、上杉家に大きく貢献した。生涯景勝に忠義を尽くし、豊臣秀吉や徳川家康も智将として高く評価していた。

魚津城 戦いの軌跡

| | |
|-------------------|--|
| 15世紀 | 松倉城の支城として権名氏が築城 |
| 永禄11~12年(1568~69) | 上杉謙信が攻略 |
| 天正10年(1582) | 3月……………織田軍が魚津城を囲み、攻撃を開始 |
| | 6月2日……………「本能寺の変」が起きる |
| | 6月3日……………織田軍が魚津城を攻略 |
| | 6月5日以降…織田信長の死が知られ、織田軍が撤退 その後、上杉軍が魚津城を奪還する |
| 天正11年(1583) | 佐々成政が攻略 |
| 文禄4年(1595) | 前田利家が領有 |
| 元和元年(1615) | 元和の「一國一城令」により、廃城したとみられる |



語り継がれる悲劇の籠城戦